

SS 科学基礎 (出張講義)



平成24年10月16日(金)に東京工業大学教授本川達雄先生をお招きして、「ゾウの時間・ネズミの時間・私の時間」の演題で出張講義が行われました。本川先生は、棘皮動物(ナマコ、ウニ、ヒトデ、ウミユリ等)の研究をなさっている生物学者です。「ゾウの時間・ネズミの時間」は、動物のサイズから動物のデザインの論理が数理的に解説されていて、理学書としては異例の80万部を超える出版がなされ、1993年の講談社出版文化賞の科学出版賞を受賞しました。

今回の講演の要旨は、時計で計るものだけが時間ではなく、動物により時間の早さが異なる。ネズミの時間はゾウの時間よりずっと早く、エネルギーを使えば使うほど時間は早く流れるのが生物の時間である。そのような時間の見方を持って、われわれ社会生活の時間を眺めると、時間はエネルギーを使うほど早く進むと言えそうである。

3.11以降エネルギー問題が切実になっているが、実はエネルギー問題は時間の問題と深く関わっていて、現代の大問題であるエネルギー問題、環境問題、少子高齢化の問題についても、生物学的時間という視点から考えることができる。科学とは自然の見方であり、見方を変えれば、世界が全く違って見えてくるし、現代社会の問題点がどこにあるかもはっきりしてくる。科学と社会の接点についても、今回の講演でお話しいただきました。

今回の出張講義は、英進部1年生全クラスと2年理系クラスが聴蛙館(講堂)で聴講し、2年文系クラスと3年生全クラスはモニター放送を通して聴講しました。生徒たちは時間を新たな視点で見つめ直すことが出来ました。



・ けものなら みんな変わらず一生に 1キログラムの体重あたり 15億ジュール 消費する
 ・ 楽しく歌も交えて、しかしその内容は実に科学的な論理の展開であり、わくわくするような驚きと発見を体験できた講義でした。懸命に耳を傾ける高校生の熱気から、21世紀はきっと時間という概念がもっと変化していきそうな、新しい物の考え方が出てきそうな……予感がします。